

2013年度(平成25年度)京都市多文化施策懇話会第1回～第3回会議での主な意見

※ 発言委員敬称略

	テーマ	回	発言委員	意見
1	交流機会のきめ細かな提供	1	プラ一、片山	国際化に関して意識が高い方に対しては、より多くの交流機会を提供し、そうでない方に対しては、日常生活の中で意識の底上げがなされるような取組を行うなど、それぞれの対象に応じた働きかけを考えていくことが必要である。
2	交流機会のきめ細かな提供	1	姜	30歳代は忙しく時間がないだけで、交流の機会を持つと反応は良いので、交流の接点を見つけることが大切である。
3	交流機会のきめ細かな提供	1	河田、西岡	外国人と接することに消極的な若者が多いため、幼少期から異文化に触れる楽しみを知る、異文化になじんでいくといった国際理解ができるような環境作りが必要である。
4	交流機会のきめ細かな提供	1	オレーナ	国際化に関する意識を醸成する機会としては、例えば親子で参加するイベントを活用し、日本人と外国人の親子が相互に交流をすることなどが効果的と考える。
5	交流機会のきめ細かな提供	1	西岡	外国人とのふれあいを英会話の機会として捉えている方も多いが、「外国人イコール英語を話す人」とは限らない。こうしたことを学ぶためにも、子どものころから多様な外国人との交流経験により、国際感覚を養うことが必要である。
6	国際理解	1	西岡	日本人に外国のことを学んでもらう機会と、外国人に日本について学んでもらう機会との両方が必要である。
7	国際理解	1	柴田	外国籍市民の方が日本を学ぶ場、また、自分の民族について学ぶことのできる環境を用意する必要がある。
8	国際理解	1	金	アイデンティティの確立のためには、民族学級のような機会もやはり必要であると考えます。
9	コミュニケーション支援	1	福井	中国帰国者の家庭では、1世と3世との家庭内の言語コミュニケーションが問題になっている。彼らが相互に意思疎通を図れるようになるための学習の場が必要である。
10	拠点の広がりネットワーク化	2	有田	今後、京都市地域・多文化交流ネットワーク促進事業」の理念や同様の機能を、東九条地域だけにとどまらず、京都市内に広げていくことが必要である。各地域に広げる際には、それぞれの地域の特性に応じた多文化交流活動拠点が存在し、さらには、その拠点同士がネットワーク化されていく、といったことが求められる。
11	拠点の広がり	2	柴田	地域の身近なところで、日常レベルでの多様な交流が展開されるような仕組みができると良い。例えば、保育園、幼稚園、学校などでの交流が良いと思う。ひとつひとつの集まりの人数は少ないが、多様な背景の方が集まっており、そうした集まりを活用することは大切だと思う。
12	拠点の広がり	2	金	学校跡地や有効に使われていない施設の活用が必要である。
13	拠点の広がり	2	金	地域における多文化共生に係る課題について話し合いができるよう、区単位や地域単位で多文化施策を考える場を持つような機会を作ることが必要である。
14	拠点の広がり	1	有田	国際交流協会なども、一箇所での活動に留まらず、市内の様々な地域へ出向いていくことが大切である。
15	市民活動のコーディネート	2	プラ一	市民団体レベルでの交流は重要であり、それには行政機関の関与が必要なきもある。民間レベルで難しいようなことでも、行政が関与することで飛躍的に前へ進むことができる。

16	外国籍市民等が活躍できる機会	2	片山	外国籍市民をどう支援するか、サポートするかが大切である一方で、彼らが主役になり我々が与えられる側になる場を作ることも大切である。
17	外国籍市民等が活躍できる機会	1	柴田, 西岡	優秀な留学生が、ビザの関係で日本に残ることができず、貴重な人材を失っている。留学生に係る制度について、また各大学の状況と怒っている問題についての実態把握をしていただきたい。
18	外国籍市民等が活躍できる機会	2	姜	福祉関係で就職している留学生たちは韓国・朝鮮語が話せるということで、「国際関係業務」のビザで働いている。日本で学び、その後日本で働きたいと考えている留学生が働けるような仕組みの協力をしてほしい。
19	子育て支援	3	西岡	自分の経験では、海外での子育てでは小学校に入るまでのこの年齢が一番大変であった。やはり乳児と幼児の時期のサポートが最も必要であると思う。
20	子育て支援	3	柴田, プラー, 張	外国籍の子どもを受け入れてきたノウハウや経験の蓄積をいかすことが重要である。突然外国籍の子どもを受け入れることになった保育所等へのサポートも必要であると思う。養正保育所での今までの経験を手引きのようなものにし、各保育所へ配布できると良いと思う。
21	子育て支援	3	プラー	母国語が英語でない場合でも、深刻な話でなければ英語の会話で問題がなくても、込み入った話では母国語の方が通じる。「京都市新生児訪問等通訳者派遣」のようなシステムを使い、将来母国語で対応できるようになれば良いと思う。
22	情報提供	3	福井	外国籍市民の中には、様々な行政サービスについて知らない方もいるため、そういった方への周知方法の工夫が必要である。
23	情報提供	3	西岡	京都市ではどういったサポートをしているのか、またサポートができるどのような団体があるのかなどについて、様々な部局と連携した情報発信が必要である。
24	情報提供	3	西岡	子育てに限らず、必要な情報を必要な方へ届ける広報は大変であり、行政に協力してもらいたい。
25	資金面での支援	3	金	医療通訳派遣事業については、実施団体に対し、事業資金に係る行政からの支援が継続的になされている。子育て支援も医療と同様に重要であり、そうした活動を行う団体に対しても、同様に継続的な支援が必要であると考えられる。活動を継続することによって経験の蓄積がなされ、活動がより良いものになっていく。
26	資金面での支援	3	姜	NPOにより留学生支援をおこなっているが、賛助金を集めるのは困難であり、市の補助金を受けてはいるものの、申請や報告書作成など大変である。
27	資金面での支援	3	福井	地域での多文化交流事業を開催しているが、補助金を継続的に得ることはできない。事業は継続することが重要であるが、継続すれば支援が受けられなくなってしまうというジレンマがある。
28	医療の充実	3	姜	医療通訳派遣事業が使える病院を増やしていただきたい。